

平成20年度 第1回子育て・環境・魅力づくり部会

□開催日時 平成20年9月11日(月) 午前9時30～11時30分

□会場 区役所5階旧建築課スペース

□参加委員

専門部会B委員：今井部会長、神谷副部会長、石野委員、酒井委員、佐藤委員、
庄司委員、菅野委員、沼田委員、深瀬委員、松脇委員

事務局(企画課)：渡邊課長、小池主査、北村主査、小出、齋藤、吉田

(地域振興課)：松本課長

(こども支援室)：吉田主幹

□議題

1. 正副会長の互選
2. 審議テーマの選定について
3. その他

司会進行 ⇒渡邊課長

(開会宣言)

平成20年度第1回幸区区民会議「専門部会」のA部会を開催させていただきます。会議の進行ですが、部会長、副部会長が決まるまでの間、当面私ども事務局で進行させていただきますので、御了承いただきます。

この会議は、区民会議の専門部会と致しまして、全体会議と同様、条例(川崎市審議会等の会議の公開に関する条例)に基づいて公開の対象となっておりますので、御了承お願い致します。

会議録等作成のため、録音させて頂いております。会議の内容もホームページや区民会議だより等で公開することとしておりますので、写真等も撮影させていただきます。

始めに会議の資料等の確認をさせていただきます。お手元に資料2枚配布しております。1枚目が次第になっております。2枚目が審議テーマ一覧になっております。

次に専門部会のメンバーでございますが、第1回区民会議で御確認いただいた10名になっております。

事務局を御紹介させていただきます。私、企画課の渡邊と申します。企画課から小池主査、北村主査、小出職員、齋藤職員、吉田職員と、本日の審議テーマ関係課である地域振興課から松本課長、こども支援室から吉田主幹が出席しています。

専門部会の会議録や資料作成を(株式会社)社会空間研究所にお手伝いいただくことになっております。その社会空間研究所の中島さんが参加しております。

本日の専門部会では、最初に正副会長の選出、その後に部会長の進行のもと、審議テーマの選定及び進め方の検討を行いたいと思います。次回の検討部会の日程も決めたいと思います。

1. 正副部会長の互選

(事務局)

まず、1. 正副部会長の互選について行いたいと思います。正副部会長の役割と致しましては、①専門部会の運営と、②全体会議の報告、③企画運営部会への参加、の3つがございます。副部会長は、部会長に事故等あった場合の代理と、部会長の補佐をしていただくこととなります。

なお、選任にあたりましては、区民会議条例施行規則の規定により、委員による互選となっておりますので、正副部会長の選任を諮りたいと存じます。

事務局といたしましてはできましたら、1期の経験のある方と2期で初めて参加された方でチームを組んで部会長と副部会長になっていただければと考えております。自薦・他薦ございましたらよろしくお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

(酒井委員)

佐藤委員を部会長にお願いしたいと思います。

(佐藤委員)

私は遠慮させてもらいます。

(庄司委員)

今井委員は、いかがですか

(今井委員)

どなたもいらっしゃらないようであれば。

(事務局)

皆さん、いかがでしょう。部会長は、今井委員でよろしいですか。

(委員全体)

拍手により了承。

(事務局)

部会長には今井委員ということで皆さんに御了承頂けたということで、先程説明しましたように1期と2期でチームを組んで頂きたいので、副部会長を今回新たに委員になられた方をお願いしたいと思うのですが。

(今井部会長)

せっかくなので、公募の方がいかがですか。公募の方は意欲的な方ばかりです。石野さんいかがですか。

(石野委員)

今、子育て事業をやっている関係で、難しいと思います。

神谷さん、子ども会連合会は、いろいろな繋がりがあるのではないですか。いかがですか。PRするには、良い場所なのでお願いできないでしょうか。

(神谷委員)

できないという理由もございませんので、お受けいたします。

(委員全体)

拍手により了承。

(事務局)

では、副部長は、神谷委員にお願いしたいと思います。

部長・副部長から就任にあたって、一言ごあいさつをよろしくお願い致します。

(今井部長)

第1期でも部長をやらせて頂いて、引続いてさせて頂くことになりました。第1期も自分では上手くできたと思っていませんが、再任された以上は一生懸命やらさせていただきます。よろしくお願い致します。

(神谷副部長)

幸区子ども会連合会から出ました神谷です。今年初めてではございますが、今井委員とやらさせていただきます。皆さんよろしくお願い致します。

(事務局)

ありがとうございました。これより、進行を部長にお願い致します。

2. 審議テーマの選定について

(今井部長)

このあと、本日の協議事項といたしまして、審議テーマの選定を行いたいと思います。事務局からアンケートをとって頂きましたので、その説明をお願いします。

(事務局)

会議の次第の資料2を御覧ください。

この部会で審議できる5つのテーマについて、審議課題の優先順位の判断基準（緊急性・必要性・公平性・区民の参画度）に基づいて、委員の皆さんからアンケートを頂きました。

アンケートを集計したのが、資料2の集計表になります。3つ審議テーマがそれぞれ、6人の方に選ばれています。この結果を踏まえ「安心して子育てできる環境づくり」「ごみ減量・リサイクルの推進」「地域コミュニティ活動の推進」の3つの中から1つを審議テーマに絞り込んで頂きたいと思います。

続きまして、第2回区民会議まで、本日を含めて2回の専門部会を開催できるかと考えています。次回の検討部会の審議状況について、第2回区民会議で報告を頂き、その審議結果を踏まえて次の専門部会での審議になっていきます。今回の審議テーマにつきまして、第3回区民会議で提言するかどうかについては、その時点での調査検討審議の深まり加減で判断してほしいと思っています。

(今井部会長)

3つの課題テーマは、幸区の重要な地域の課題ですが、今回この部会で審議するテーマを決めていきたいと思えます。6人の方が選んでいる「安心して子育てできる環境づくり」「ごみ減量・リサイクルの推進」「地域コミュニティ活動の推進」の3つのテーマの中から審議テーマを決めていきたいと思えます。

まず、提案委員から御説明を頂きたいと思えます。「安心して子育てできる環境づくり」について石野委員・酒井委員、お願いします。

(石野委員)

マンションがたくさん増えてきていて、部屋の中に閉じこもってしまって、子育ても初めてで不安だらけでやっていると思うのです。

古市場の子育て支援センターをやらせてもらっていて、子どもたちが親と一緒に遊ぶ場所を提供しています。そういう場所をどんどん増やして行ってほしいと思えます。公園があってもボール遊びができなかったり、不審者もいるようなことがあります。子育て支援センターのような場所を増やして行って、お母さん方に安心できる場所を提供できたら良いと思えます。

(酒井委員)

子ども総合支援の会議に参加したときに痛切に感じたのは、今、祖父母が同居していない核家族が増え、子育ても息詰まっているということです。親にストレスが溜まって、やり場がないために小さい子どもにぶつけてしまうようです。

以前は、井戸端会議などで話をするることによって、ストレスが放たれていったものです。

母親クラブで、毎年クリスマス会をやっています。民生委員とか母親クラブの役員や親子とかが楽しくやっているのを見ていて、大勢の中で生活できれば、悩みなども解消できるのではないかと感じました。そういう場所の提供も必要だろうし、そういう支援も必要だと思えます。

向こう三軒両隣のような小さいところからどのように広げていくのか、皆さんの知恵を借りて発信したいと思えます。

(今井部会長)

ありがとうございました。続いて、「ごみ減量・リサイクルの推進」について提案して頂きました神谷委員・沼田委員よろしくお願ひ致します。

(神谷副部会長)

検討の方向という項目を見てほしいのですが、「各町連、各地区の方々に積極的な働きかけと成功例を提示するなどして住民にアピールを行う」という部分を推していきたいと思えます。

小倉に住んでいて、一昨年からモデル地区として廃品回収を地区全体でやっています。これまでは横浜市と隣接していて、横浜市では、リサイクル・ごみの分別とか、どんどん進んでいて厳しくなっている反動なのか、小倉にごみを置いていってしまうような問題が出ていました。市が小倉地区5町会を合わせてモデル地区として、新聞・ダンボール・衣料などを分別しています。その他に、ただの紙ものを別に分別して市で引き受けてくれ、その他の物は、業者が引き受けてくれています。

半年くらい経ったら、みんなの意識が変わってきて、しっかり分別するようになってきました。周りがそういう意識になってきたら、外からのごみも持ち込みにくくなりました。利益も上がりました。

第1回区民会議のときも話に出ていましたが、衣料はどうやって回収するのですか、しないのですかというような意見が出ていたと思います。昼間、ビルの管理みたいな仕事をしているのですが、いつでもダンボールなどでぼんぽんごみとして出されるのを見て、もったいないと思っています。そういうことがあって、モデル地区でやっているならば、どんどん他の地区にも広げて行く必要があると思うので、この意見を出させてもらいました。

(今井部会長)

次に沼田委員お願い致します。

(沼田委員)

今、話があったように、市でミックスペーパーの回収をモデル実施しています。ミックスペーパーだとダンボールよりもっと薄い紙をまとめて持っていきます。

ビニール袋の中にペットボトルも空き缶も生ごみも一緒にビニールに入れて出している人がいて困っています。そういうものは市で赤い紙を貼って、持っていかないようです。持っていかないと近所の人、空き缶とペットボトルと生ごみを分別してあげないとならないという困った問題になっています。

多摩川を掃除したときに、自転車や洗濯機や冷蔵庫等が出てきて、これは、有料化されたので、かえって無料で捨てるために多摩川河川敷に持っていったり、よその空き地に持っていったりするようです。本来、捨てるためには、有料のシールを貼らなくてはなりません。自分の家の自転車ならともかく、他人の自転車が自分の庭先に置かれてしまうと、交番に届けて、ごみとして出して良いと言われても、自分で有料シールを貼って、出さなければならないという問題もあります。

(今井部会長)

次に、「地域コミュニティ活動の推進」ということで、深瀬委員、説明をお願い致します。

(深瀬委員)

2年間、日吉商店街連合会から区民会議に参加してきたのですが、区民会議自体を自分でもまだちゃんと理解できていません。

商店街を例にとると、今どこの商店街も多いのが、空き店舗の問題と店は辞めないけど、会を脱会しているケースが多い。商店街でも、発展している商店街を視察していて、この間も静岡の呉服町商店街まで行ってきました。成功している商店街でも一人一人が商店街を良くしていこうというのが足りなくて、成功するまでには、最初2~3人の人が頑張っってやっていって、なかなか全体的に広がらないのですが、それが広がって上手く商店街が活性化されたというのが、ほとんどの共通点です。

自分たちの商店街を見てみると、会費を払っていると、何かやってくれるんじゃないかという期待がすごく多い。お金払っているのに何も無いんじゃないという不満が結構あります。お金を払っているからではなくて、一店舗一店舗が、どういうふうにしたら商店街が活性化して

自分の商売も良くなっていくか、それぞれの人が考えていかないと良くなっていかないと思います。

区民会議に参加していて、そこに住んでいる人たちがごみの問題でも何でも、一人一人が考えていかないと、いろいろな問題が解決していかないとします。区民会議があることを知っている人は少ないと思います。一人一人が幸区を良くしていくことに多くの人が参加して行ければ良いと思うので、このテーマを選びました。

(今井部会長)

「地域コミュニティ活動の推進」を提案したのは、区民会議でいくら子育てとか、ごみ減量・リサイクルとかを話し合っても(委員や団体の上層部だけで話し合っても)浸透しないことがあると感じられるからです。

地域の課題は、行政だけに任せるとか、ある団体だけが頑張るとかでは、息が切れてしまうので、企業も巻き込んで町内会などの地縁団体とかテーマ団体とかの区分けもなくして、地域全体で協働で取り組んでいかないと地域の課題は、解決できないのではないかと思います。いくら子育てとかごみとか緑化といっても、地域に浸透しないと区民会議でやっていることが意味をなさないのではないか、という疑問を持ちました。

それです、幸区の現状としましては、マンションがたくさんできて、新旧住民と言われていますが、新住民だからとか旧住民だからとかいう区別をなくしていかなければなりません。支援型とかテーマ型とかの区分も同様です。また、人材が決まってしまって、後継者を育てていない現状もあります。多様な住民の参加しやすい仕組みができないか、また、いつまでも自分たちががんばるわけではないので、次の世代を担う人材の養成ができないかと考えています。

具体的には、マンション居住者が町内会に入っていないことがあります。いわゆる高層マンションの住人も一緒に何かできるような状況を作っていく必要があります。新住民・旧住民というような言い方で、2つに分裂するような傾向があると思うので。

アンケート結果では、3つのテーマが優先課題となっているのですが、第1期の区民会議では、「安心して子育てできる環境づくり」については、子育て交流の場づくりや子育て情報配信の抽出ということが提言されました。それについて区役所から取り組みをして頂いて。「ごみ減量・リサイクルの推進」は、マイバッグ利用促進、資源集団回収活動の推進の提言がされています。

第2期で「安心して子育てできる環境づくり」「ごみ減量・リサイクルの推進」「地域コミュニティ活動の推進」のどれを重点的に審議していくか、意見交換お願い致します。

(沼田委員)

この3つのテーマの中で、継続して審議していくものはないんですね。

(佐藤委員)

第1期でいろいろ提言して、実施されているものもあります。区民会議自体、区議会のような性格を持つので、実績をつくりながら次をやる必要があります。

(菅野委員)

全体会は、年に3~4回なので、各自勉強するなり活動するなりしないといけない。

たとえば、子育て問題についても、夢見ヶ崎小学校で近くの動物公園に子どもだけで行ってはいけないとか、御幸小学校で南河原公園に子どもだけで行ってはいけないとかいう校則があります。子どもにとっては、動物園や公園は遊ぶ場所でしょう、それなのに行ってはいけないとなっています。これに対して大人たちがどう援助していくのか解決しないままだし、問題点に近づいていないと思います。

夕べ、町内会連合会で、第1期区民会議でやった内容を見たが、時間つぶしにやっているのかという声を聞きました。ある人からは、うちの方がよっぽどやっているという声があったそうです。

議論には不十分さが残っているし、課題ばかり追求していたら、すぐに品切れになると思います。

(松脇委員)

初めて参加したのですが、建設的に積極的にやりたいと思います。まちづくり推進委員会で住民と行政でコミュニティをつくりたい。その中で緑を考えようと思いました。実際やってみると緑に対して意欲はあるのだけれど、要望を言わなかったりします。問題を抱えていても、一人一人行政に相談しても強いコミュニティじゃないと、行政も優生順位をつけられないと思います。

話し合いの場を作って、意識の共有をして、情報をみんなに与えて、分かり合うようなコミュニティというような考え方を持たないと何をやっても難しいと思います。

また、コミュニティを作って、その街の取り決めをする。この地域にいる人は町内会に入ろうという規約を作っておけば、それが1つの条件になる。コミュニティを作った上で、今足りない部分、困っている部分を補う目的を持って、コミュニティをつくったらどうかと思う。個々はすごくやっているが、まとまるのが難しいです。いかに場を作るかという仕切りを作ったり、アイデアを出すことも区民会議の役割ではないでしょうか。

(今井部会長)

第1期の区民会議のときには、いろいろなものに議論が行ってしまって、先程、佐藤委員がおっしゃったような課題は、企画運営部会でそれをどういうふうにしていくか検討していきたいと思っています。話し合っただけでは、区民会議自体の存在価値がなくなっていくと思います。

3つ全部やるのか、これを重点的にやったらいいのか、B部会としてどれをテーマにやっていったらいいのか、御検討いただきたいと思います。

(庄司委員)

前回やったもの(子育てとか、ごみ減量リサイクルとか)を広めていくことが大事だと思います。それを広げるためにコミュニティというのが欠かせないと思います。

(神谷副部会長)

庄司委員の意見に賛成です。コミュニティということに、ごみ減量も安心して子育てもどんどん繋がってくると思う。

(佐藤委員)

緊急の課題として、新しい団地が町内会や自治会に入ってくるためには、どういうふうにして、入ってくるようお願いするか考えないといけない。管理組合があって、そこに自治会をつくると

いう議論は深まっていない。地域同士が言い合うのではなく、行政が中に入る必要がある。マンションによっては、町内会に加入しないところもある。

(菅野委員)

マンションが町内会に入るのに3年もかかったという経験があります。今の人は、仕事が終わってから時間に余裕がある人がいないと感じました。

(佐藤委員)

若い人が多い町会だと運動会やお祭りなど、どんどんやってくれる。町内会に入ってもらうまでは結構言わないとならないが。

広報とかの県・市政だよりは、謝礼金が出るが、管理人がいるところも同様なので、入るメリットがないのではないか。

(今井部会長)

この部会で優先的に「地域コミュニティ活動の推進」を主なテーマとして取り上げていって、そこから掘り下げていくという共通認識でよろしいですか。

(菅野委員)

具体的に課題があっても、区民会議が実行するべき場所ではないと思っている。何かをやろうとするなら、まず区民会議の制度を直すことについて検討しなければならない部分があると思う。

(松脇委員)

私は、佐藤委員に賛成で、一昨年にマンションが近くに建ちました。私たちとしては、条例があるといいのですが、街の方で準備して、この街にはこういうところが足りないとか、マンションができると管理組合は町内会に入ってくれるとか、みんなで決めておけば、たとえ条例であっても、規約は強いと聞いた。そういった意味で、我々も努力が足りない面がある。勝手に管理組合に入らないからというのは、僕らがそういう仕組みを作らなかったのがいけないし、行政の人と考えながら、昔からの住人と将来残る人たちが、いいと思うことを出し合わなければならない。そのためには、コミュニティを作らなければ強い言葉にならないので、緊急性を含めて「地域コミュニティ活動の推進」に賛成します。

(今井部会長)

私はマンション在住なのですが、前に役員の仕事をしたときに町内会費を払いたくないという人がいました。町内会に入ったらどういふうにやってもらえるのかが見えないという声もありました。

町内会に入ってくださいとお願いするのもいいのですが、もう一方では、町内会ではこういうことを皆さんのためにみんなでやっているのですよと情報発信していかないといけないし、公開していかないといけないと思います。その姿が見えないと、何やってるのということになってしまう。佐藤委員がおっしゃったように、一回中に入れば、こういうことをやっているんだと見えてくる。見えてくるから動く。まずは、見せてあげなくてははいけない。こういうことをやっていると、こういう楽しいこともあるし、地域を良くすることもできるということを見せていかなければならないと思う。手だてとしてまず、情報公開していくべきだと思う。

そういうのをまとめていくには、どのくらい町内会に加入しているのかを行政に現状を調べてもらうことと、どういう取り組みが地域でなされているのか把握しないとイケない。行政にまとめて頂いて、この部会で具体的にどうしたらよいか考えていきましょう。

では、幸区でコミュニティがどうなっているのか引き続き、現状をお話ください。ごみなどは、町内会の役員が片づけるのですか。

(沼田委員)

サウザンドシティの隣に大きな公園ができています。ある会社の敷地内であって、それを市が公園としてつくって、サウザンドシティの公園だといっている。公園の管理はいっさいやらずに近所の人に頼んでいる。ごみが多いからサウザンドシティからも捨ててくれと言われている。掃除をするわけでもなく、公園の管理をするわけでもないという現状がある。

サウザンドシティの役員さんは、全員が年に1回で交代してしまう。安全安心パトロールを毎月やっています。公園の所に町内会の役員とサウザンドシティの役員と一緒にパトロールをやっているが、サウザンドシティの役員は毎年変わってしまうので、繋がりがもてない。

(今井部会長)

お互いに顔を合わせるチャンスを作っていけば、お互いに理解が深まると思います。ある自治体では、新住民・旧住民とか、地縁団体とテーマ型団体とか、協働で取り組んだらそれに対して助成金が出るというのがあって、すごく効果が出たそうです。

幸市民協働プラザで、一つの部屋は市民活動団体で、もう一つの部屋が地域の人たち向けという形で仕切られていました。入口は一緒です。最初、お互いにぎすぎすしていましたが、入口が一緒なので、お互いの活動が見られます。2年ぐらい通ったら、地域の人たちがどれくらい一生懸命地域のためにごみ分別とかやっているのがすごくよく分かった。お祭りのときも、3日間もやっている姿などを見て、私自身が勉強になった。無理矢理でもいいから、顔を合わせる場面を作ってしまうえば、お互い見えてくるので、いい雰囲気醸成されてくると思います。イベントでも何でもいいので、共同作業できる場所を作れば、コミュニケーションがとれるようになってくると思います。

(沼田委員)

我々は避難訓練で小中学校とサウザンドシティの人と一緒に会合したりする。サウザンドシティなりの考えを持ってきているのだけれど、こちらで抑えてしまうことがある。

(今井部会長)

例えば、公園の管理についてこういうことを町内会と一緒に取り組んで、こういうことをやりたいと行政に提案した場合には、行政が補助金を出すとすれば、アイデアを出すのではないかな。

(佐藤委員)

協働で公園を管理する組織をつくることができたら良いと思います。今は、こっちはこっちの町会だとなっていますが。

団地の中の一部に提供公園がある。周りから見るとあの団地の公園じゃないかという。その公園に提供しているのは、地域だからという違和感がある。位置づけを地域にきちんと説明してあげる必要がある。行政はそれをやるために協働推進事業費という予算を持っているので、それを使える

ようにしてもらわなければならないか。区長の権限を強くしてもらって、区長に予算をいっぱいあげなければならない。区長の力を強めていけば、地域の活性化に繋がると思う。

(菅野委員)

パークシティの中の緑を維持するのに理事会は年間1千万円出している。しかし大変なので、400万円は総合理事会から出して、600万円は緑化班を希望者を募って自分たちで(労働という形で)出している。これは、5年ぐらい続いている。あの中で1千万円出しているのなら、周りからとやかく言えない。

(松脇委員)

今は、地域全体に繋がりを持つという話をしているのですが、どう関係しているのかわかりません。

(菅野委員)

コミュニティで、どういう繋がりを持つのかという問題では、緑1つとっても千差万別なんです。神明町の緑道は、町会が完全に市から任されてやっている。

(今井部会長)

地域コミュニティを推進していくためには、もっと具体的にこういうようなものが有効なのではないかという御意見があればお願いします。

(佐藤委員)

コミュニティの中の1つの項目として、新しい団地・マンションの人は地域に自治会を作るなり町内会に加入して、地域と一体で活動する必要がある。そのために何ができて、何が必要であるか。実際にはどうなのか検討したい。

幸区には、新しく建っているマンションがたくさんあるけれど、実際は、町内会とか自治会に入っているのか、地域に入ってもらうために行政にこうしてほしいとか提案していければいい。

(松脇委員)

どうやって、協働の場を提供するか、お金を使わなくても。そういう場を作っていくことによって、情報が伝わるのではないのでしょうか。

(庄司委員)

コミュニティづくりの課題になっているのは、大型マンションの問題なのか、具体的に出して、実際に取り組んでいる事例とかを知りたいです。

都心部では、もう何十年も前から町会とか入らなくなってきたようです。どうしたら一緒にやってくれるコミュニティが作れるかやっちはいるが、なかなか良い結果は聞かれないです。

中原区で、コミュニティの組織作りをしようという動きがあるのを聞きました。

(沼田委員)

幸区でも、住民が結構町会に入っていない場所もあるんです。不思議なことに、サウザンドシティの背の高い建物と周りは理事会や町会に入っているが、マルエツの上にある団地は、一切入っていない。民生委員はサウザンドシティの方がやっている。

(今井部会長)

次回までにその辺の資料を提供頂きたいと思います。

(沼田委員)

住宅供給公社が建てたのがサウザンドという名前の建物で、隣に市の住宅供給公社で賃貸マンションを作った。こっちが町内会に入らない。

(神谷副部長)

そこには、自治会があるのですね。

(佐藤委員)

自治会があっても町内会連合会に入っていないので、子どもたちが行事に参加したくてもできない。

(今井部会長)

勉強不足なので、町内会費は、どのくらいなのかを知りたい。

町内会に入れなかったりとかあるのですか。会社は入らなくていいとかあるのですか。

新聞で見たのですが、大学が多い地区では、大学生がワンルームマンションとかに住んでいて、そういう人たちの町内会費を免除してあげ、代わりに若い力に参加してもらって活性化したという話もある。全国で様々な町会の取り組みが行われているようだ。

(松本課長)

自治会の組織は任意組織ですので、入る・入らないは各人の自由です。その町会で取り決めるべきことです。今、指摘いただいた町会費の問題ですが、地域振興課では各団体に町会費がどれくらいというアンケートもしています。それは、データとしてあります。

(今井部会長)

会費は、地域ごとに違うのですか。

(松本課長)

各町会で会費を決めています。平均すると300円ぐらい。企業が加入しているところもあります。

(今井部会長)

そうであれば、例えば、先程の学生さんみたいに若い力がほしいのであれば、町会ごとに決めて学生さんは免除してあげて、そのかわり何か手伝ってほしいというのも可能だと思います。

(事務局)

多摩区役所が同じような課題を抱えていて、町内会の加入率が低いところの理由が、大学生さんたちも2年か3年、長くて4年と変わってきてしまうことらしく、町内会に入るところまでいかないようです。

町内会ごとに違うようですが、町内会に加入はしているけれど、お金はもらっていないとか、建物でお金をもらっているとか。網羅的に聞けるかどうかかわからないが、事例として情報はあります。

(佐藤委員)

地域によっては、ワンルームに住んでいる人たちから会費をもらうために管理費の中からまとめて地域に払っている場合もあるが、それは各町内会の自主性。

自主防災の活動を行っているが、災害が起きたときに、なんでそこだけ地域で面倒を見ないのかということになってしまう。防災などのこともあって、地域コミュニティをつくる必要性が出てくる。

(松脇委員)

不動産屋さんに売買契約の時に管理組合に入れとまでは言えないけれど、売買契約に入れてもらって、町内会は重要だから、不動産屋さんにも売るときに責任の一つとして、何かしぼりをしてもらえると我々としては心強いです。

(神谷副部長)

直接決められないけれど、それを促すような働きかけは必要ですよ。

(菅野委員)

そこに住んでいる人たちの要求を集めないとなかなか容易じゃないと思っています。

一つの例として、今から7年ぐらい前に戸手の堤外地にまち条例をつくろうとしていたことがあった。条例なり規約なりを作ろうと呼びかけるのはいいが、地域の人の要求が何なのかを考える必要があります。コミュニティをつくるにしても、どういう団体を集めるかということがある。

(今井部長)

今の議論は、町内会にいかに参加するか、町内会で会費をどのようにもらうかという点です。

総務省が出しているモデル図があります。町内会とか企業とか行政とかNPO法人とかの集合体の一つの地域にプラットフォームを作って、そこで連携させるようなものです。そういうものを幸区に作って、その中に全部加入させる。徐々に自分の意思でこういうことをやっているなら会費を払って参加したいとか協力したいとかいう気持ちが出てくるのではないのでしょうか。行政と企業と地域と市民活動団体をコーディネートするプラットフォームをつくるのが提案されています。そういうものがあれば、場所と情報発信手段がそろいます。実際に顔を合わせる場所とネット上のものを両方を兼ね備えたものがあると良いと思います。

たしかに、契約の際に町内会費払うんですよとやれば、お金は集まるかもしれませんが、強制的に取られている感じがします。

(神谷副部長)

今は、町連がそれに近い働きをすべきものじゃないかと思いますが、町連の人たちが今までの流れに縛られているところもあると思います。問題は出てくるかもしれないが、おもしろいアイデアだと思います。

(沼田委員)

一般の住宅では、昔は隣組のようなものがありました。新たにマンションなどができてしまったから、わざわざそこに行って仲良くやっていまいしょうと誰かが言っても、回覧板は来るし行政からのお知らせは来るので、そっちはそっちでやってくれみたいになってしまう。

(今井部長)

町会に入らない人は、情報だとか、災害のときに把握できていないので、置いてきぼりみたいな事態になるかもしれないし、問題がいろいろ出てくると思います。

(庄司委員)

どういふネットワークを作っていくのか。感じている人と感じていない人がいるので、つくることのメリットをもう少し強く訴えかける必要があると思います。

(神谷委員)

本人が町会に入ることをメリットと感じるかどうか。今は、メリットに感じない部分があるのではないでしょうか。

(酒井委員)

話の中で大きなマンションの話が進んでいるけれど、実際4～5階建てのアパートができて、これはワンルームマンションで、ほとんど昼間は住民がいません。

1人だから災害とか考えていないのではないか。昼間用事で訪ねても誰もいない。紙を置いてくれるけれど返事も来ません。それを無理に町会に入ってくださいと言っても、まず入らない。そういう人たちのコミュニティはどうするのかを考えていかないといけません。

(今井部会長)

私も隣人の顔を知りません。隣も夫婦で働いているので、朝早く出て、夜遅く帰ってくる。回覧板もドアに掛けておく。ある特定の人しか知らない状況になります。

いろいろな会議に出させてもらって、地域の方の努力が見えてきた。こういうことは、若い方とか、新しく引っ越してきた方とかあるのではないですか。

(庄司委員)

新しく入られてきた人たちは、地元のこと知らないで、そういうことから説明していかないといけません。

場をどんなふうにしていけばいいのかとなると、まず、知り合い、地域に愛着をもってもらうことが必要だと思います。どういう切り口でいけば、みんなに関心をもってもらえるのかを考えていかないといけません。

(今井部会長)

子育てのボランティアをしている70代の人から聞いた話ですが、若いお母さんたちが来て、いろいろ話を聞きたいから帰らないそうです。子育てのいろいろな事を聞きたいし、悩んでいることを高齢の方に聞いてもらいたいらしいです。そこから子育ての悩みから解消され、新住人・旧住人という隔たりもなくなるでしょう。場があるだけでも大丈夫違うと思います。

(神谷副部会長)

それは私も経験しているのですが、みんなの地域にどこでもあると思うのですが、赤ちゃん相談。新川崎にできたマンションに住む人たちが、小倉の公会堂でやっている赤ちゃん相談に何人も来ている。急に参加する人数が増えているので、どうしたのだろうと思っていたら、保健所で、こういうのがあると聞いて来ているそうです。

賢い感じのお母さんたちが多いのだけれど、子どもに対する接し方が昔と感覚的に違うと感じることが多いです。若いお母さんたちも行く場所を求めていることをすごく感じました。

(今井部会長)

世代間の交流で知恵をもらったり、そこで知り合った人同士で携帯のメールアドレスの交換とかして、同じマンションだったと分かることがあります。

(庄司委員)

保健所や区役所や小学校を通して広がって、繋がっていくことがあります。

(酒井委員)

うちの町内会でも、なかなか入ってくれません。

うちの町内会では入学児童を祝う会をするので、そのときに入ってきます。子ども会の役員をするのが嫌だから入らない人たちもいるけれど、子どもたちが大きくなって野球部とかそういう部活のときに困るから、必要に迫られて入る家庭も多いです。

マンションなんかでも不動産屋にお願いして入ってもらおうようにしていますが、町会としてもこういうことをやっているよということを知らせることも必要だと思います。

(沼田委員)

この間、「老人と若人の集い」をやりました。赤ちゃんを連れてくるお母さんたちとの繋がりができました。

(酒井委員)

子どもを抱っこしてでも参加できる場所を作ってあげる必要があります。老人がずっと同じことをしてはいけないのではないのでしょうか。

子育てもコミュニティの場から始まっていくので、作っていかなくてはならないと思います。

コミュニティの場を作り出すのは難しいが、安全・安心な子育てもコミュニティの場から始まっていくので、コミュニティの場を考えていかなければなりません。

(松脇委員)

他の地区のいい例を聞いて、勉強していかなくてはいけない。

(今井部会長)

これまでの意見をまとめると、現状の資料と新しい取り組み、例えば、多摩区とか、国が出している地域コミュニティの指針とかの資料が必要かと思いますので、提供をお願いします。

3. その他

(今井部会長)

区民会議委員の連絡網という話が出ている。第1期で委員相互の連絡を取るために連絡網を作成していました。第2期も引き続き連絡網を作成したいと思います。第1期のときには、住所・氏名・電話番号と希望する方については、メールアドレスも提供していただきました。個人情報保護の問題もごさいますが、連絡網作成について何か御意見ありますか。希望の方は、できれば携帯番号の方が良い場合もありますので。9月17日(水)までに事務局にご連絡ください。

第2回目の専門部会の日程調整をお願いします。

<10月7日（火）午後1時半～となった>

（事務局）

今、部会長からお話がありました次回に向けての資料準備について。質問資料について、何か用意してほしいというものがありましたら、事務局に9月18日までをお願いします。

先程の議論の中に出なかった話題等あれば言ってください。

第2回区民会議は、10月下旬から11月上旬に開催したいと考えています。

質問シートは、9月17日までに事務局にお送り下さい。

2回目以降もよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。

以上